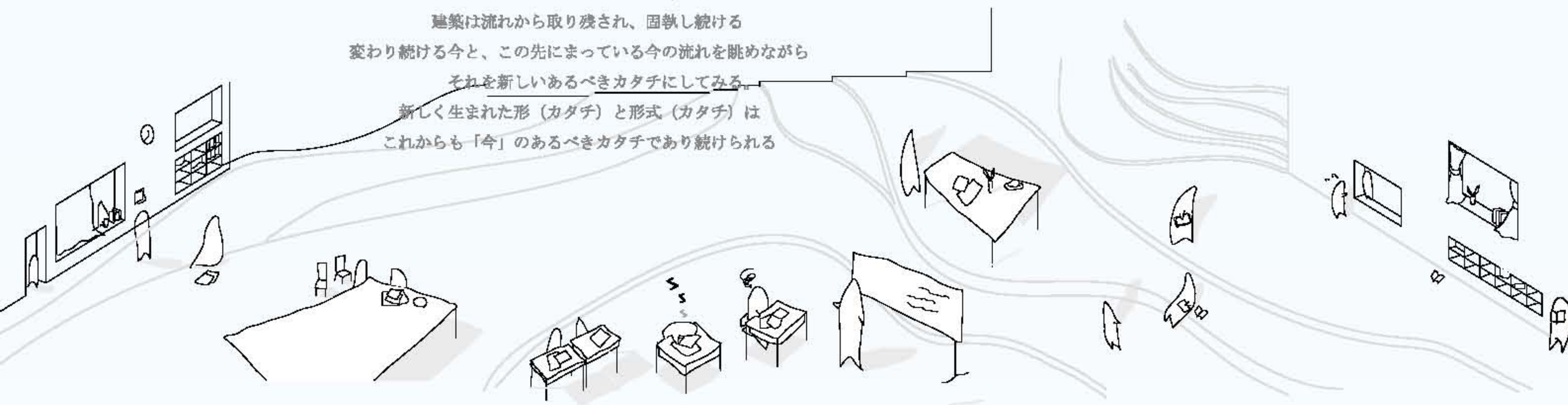


# 今あるカタチから今あるべきカタチへ、

200402614 平野 昭

～渋谷における相対的な教育複合体～

「今」は変わり続ける。  
 建築は流れから取り残され、固執し続ける  
 変わり続ける今と、この先にまっている今の流れを眺めながら  
 それを新しいあるべきカタチにする  
 新しく生まれた形(カタチ)と形式(カタチ)は  
 これからも「今」のあるべきカタチであり続けられる



## 今あるカタチ

今の小学校と社会の抱える矛盾  
 減少する子供・変化する授業形式増える老人・保育を求める声  
 地域における空虚な中心として空間をもてあます小学校と  
 生活の延長として空間を敬する社会

## 今あるべきカタチ

**形式**  
 小学校と地域施設を複合し積層させる  
 重なり合った2つのプログラムは小学校の時間による  
 用途変化によって境界線を相対的に変化させる

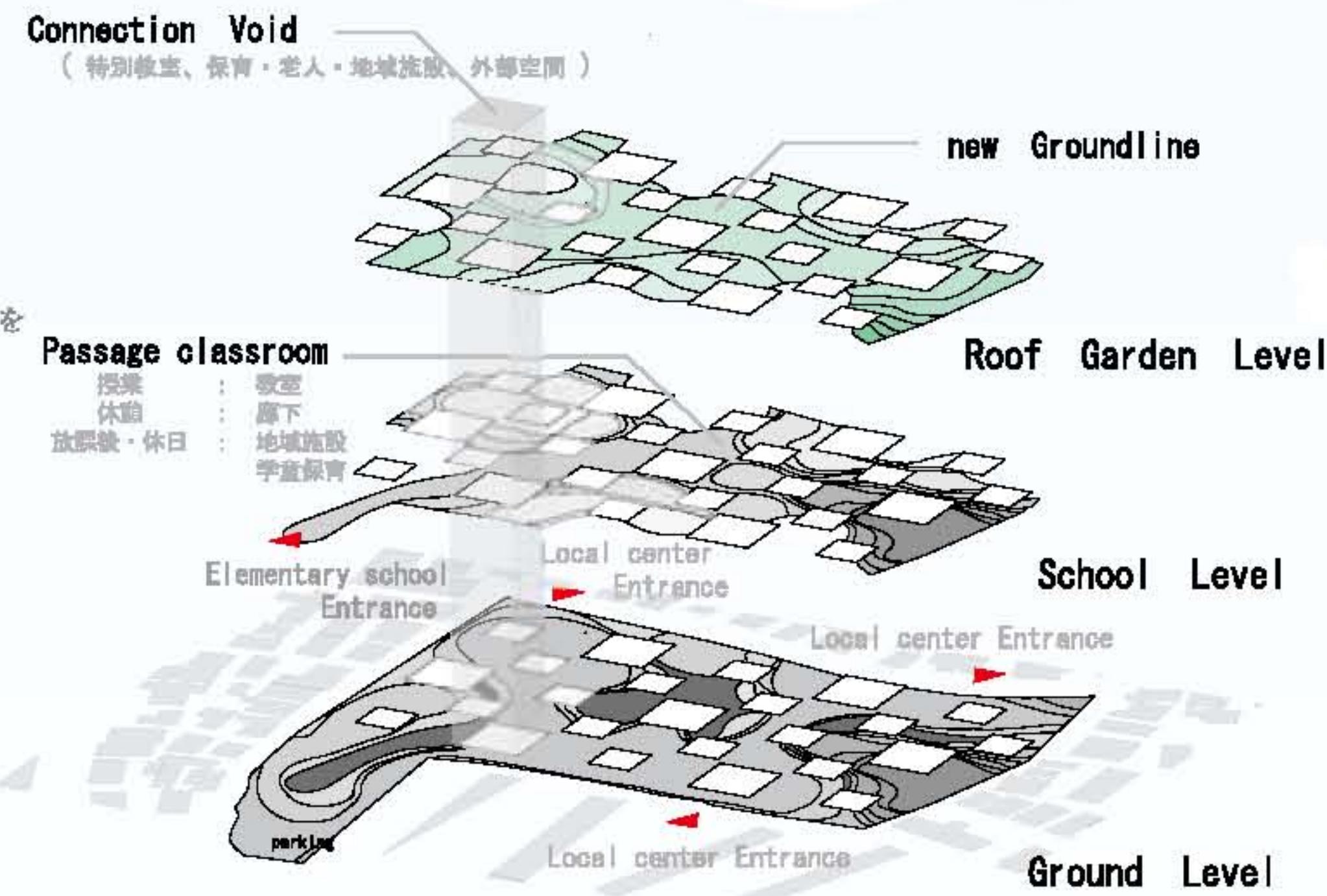
廊下と教室によって構成するのではなく  
 Passage classroomによって授業時にはもつと広い教室を  
 休憩には生活の垣間見える広い廊下を放課後には  
 小学校と交わり合う地域施設を

小学校と地域は柔らかな境界線と関係を得る

**形**  
 空間は階段状の等高線のような高低差と  
 貫入する Connection Voidによって作られる  
 空間は全体に緩やかに差異と弱い境界線を持ち  
 部屋を造るのではなく、空間を選択して授業は行われる  
 ConnectionVoidは直接的・間接的に二つをつなぎ  
 動線や行為、音、光、風・・・様々なものを伝える

屋上は渋谷の建物の屋上によって作られる  
 すり鉢状の平原の中心にある

問題と問題の交点は  
 小学校と地域と都市の平原の交点になり  
 新しい人と人の交点になる



高低差のあるSLABは教室としての空間であると共に  
 広場のような遊びの空間として行為を誘発する。



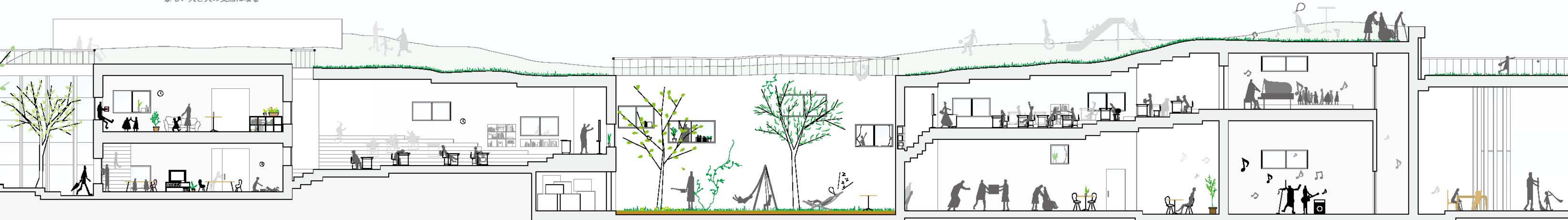
丘の上の教室、くぼんだ教室、明るい教室、庭の見える教室・・・  
 ここにあるのは数え切れない空間と初めての体験たち



屋上にはみんなの集まるおおきくてデコポコな平原  
 そこにあるのはいつもと違う渋谷のおおきな空と垣間見える生活の断片たち



空気と光そして生活の様子が屋上の穴から中庭へ  
 そして教室へ流れ込み逆風に吹き上げる



## 講評

敷地に起伏のある渋谷周辺の住宅密集地のなかに計画された、小学校、福祉施設、地域施設、保育施設などが立体的に複合された施設である。  
 現代の小学校では、教育の内容、方法とも多様化しているなか  
 にあって、制度が決める空間の画一さは其のことに対応する事が  
 不能となっている事への批判から計画を組み立てている。  
 プログラムを複合化する事と同時に空間の相互貫入と境界面の在  
 り方を再構成する事で、小学校の空間を画一的な制度の空間から

豊かな空間の展開と人々のそれへの関わりを呼び覚まそうとする  
 モノに替えていこうとする計画となっている。  
 教室廊下 (passageroom) と其の文節と統合、境界面の操作と  
 して開口の立体的にすれた関係性、敷地が示唆する等高線の空間  
 への取り込みなどの手法をとりあげて、デザインの独自性を創る  
 ことに成功している。  
 施設の使われ方の時間的な変化、プログラムの融合、空間と身体  
 の相互関与などに着目して上記の手法をもって、社会的に開かれ

た小学校の空間を相対的に浮かび上がらそうとする試みとなっ  
 ている。其の着想は独自性があり高く評価したい。  
 プレゼンテーションの出来映えと言う視点から、敷地の起伏を投  
 影した立体的に変化にとんだ空間の表現、縦方向の開口部と平面  
 的な開口部の在り方の独自性など計画の重要な提案の要素となっ  
 ている、空間の特質を伝えるに十分な表現が発見されていない事  
 が残された課題となっている。